

神奈川県青少年科学体験活動 推進協議会 NEWS 第104号

平成29年12月10日発行
事務局：県立青少年センター
科学部 科学支援課
電話：045-263-4470

神奈川の自然の中で科学を学ぶ

前号の巻頭では、大山の紅葉の写真を紹介しましたが、横浜でも最高気温が10℃程度の日もあり、朝晩はぐっと冷え込んできました（最高気温が氷点下の北海道にはかきませんが）。青少年センターへ向かう紅葉坂には、街路樹としてイロハカエデが20本ほど植えられています。平地でも紅葉が進んできた横浜ですが、紅葉坂も今まさに紅葉が見ごろとなっています。



今が見ごろの紅葉坂の紅葉(11月29日事務局撮影)

自然観察会

青少年センター主催の、屋外での自然観察を含む講座としては、「自然観察会」、「星空教室」、「子ども科学探検隊」の動物園見学、「中高生サイエンスキャリアプログラム」の自然教育園見学・ビオトープ見学などがあります。

その中でも今回ご紹介する「自然観察会」は、地域の造詣ある方々を講師とした屋外での自然観察を中心とした講座で、年間3回開催しています。家族で参加する方も多く、お弁当持参で1日を過ごします。観察したこと・発見したこと・驚いたことを親子で話している光景は、主催した喜びを感じます。ご協力いただいた会員の皆様に感謝いたします。



江の島を学ぼう！	鶴見川で魚とり！	鶴見川流域で野鳥観察！
5月27日(土)	9月2日(土)	12月2日(土)
		
54名の参加者を5班に分けて、江ノ島を散策しながら磯の生物や特徴的な地層などについて学びました。とても豪華な講師陣で、5名のうち3名は地元の小学校の校長先生でした。また藤沢市内の小学校の若手の先生方13名もボランティアとして参加いただきました。あまり観光客が立ち入らないような場所にも案内してもらい、江ノ島の魅力をたっぷり味わい、満喫しました。天候にも恵まれ、あっという間の1日でした。	鶴見川流域センターの周辺流域でのショートウォーク、魚とりなどの体験活動をとおして、鶴見川流域の治水、防災、自然について学ぶ自然観察会だったのですが……前日の大雨により河川の水量が増していたためメインの魚とりは断念し、雨天プログラムでの実施となりました。流域センターには鶴見川に生息する生き物の飼育・展示や、鶴見川流域の立体模型などが用意されており、鶴見川の自然環境や防災対策について、学ぶことができました。	9月2日の「魚とり！」に引き続き、鶴見川流域センター横の多目的遊水地を中心に野鳥観察を行いました。双眼鏡の操作方法を説明してもらい、一人一つずつ双眼鏡を首に掛けて出発しました。すると、すぐに猛禽類のオオタカが上空を飛び回ったり、日本で最も大きな野鳥であるアオサギやダイサギが次々と現れたり、カルガモなど何種類ものカモの仲間が水面に浮かんでいたりしました。午前中の散策で26種類もの野鳥が観察できました。

青少年センター豆知識

1 青少年センターが坂の上にあるワケ

「史跡 神奈川奉行所跡」という大人の背丈ほどの大きな石碑が青少年センターの前に建っています。(左の写真、事務局撮影)

今から158年前(1859年、安政6年)に横浜港が開港されました。あの有名なペリー(米国東インド艦隊司令長官)が黒船で浦賀沖にやってきたのがきっかけです。その圧力に負けて、江戸幕府は横浜港を開港しました。開港の直後、横浜港を見下ろすことができる紅葉ヶ丘の高台に「神奈川奉行所」(警察と市役所を兼ね備えたような施設)が設置されました(右段の写真)。つまり、青少年センターの場所は、神奈川奉行所の跡地なのです！現在は、周囲にマンションや高層ビルが建ってしまい、青少年センターから海は見えませんが、当時は、横浜の海を一望に見下ろすことができる眺めのいい高台でした。

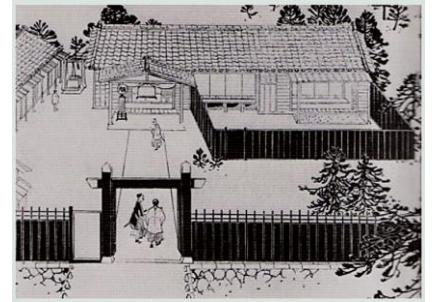
幕府がこの丘を奉行所の場所に選んだ主な理由は次の3つです。

①断崖上の要害で港の監視に都合がよかったため

②いざという時はここを城砦として戦うため

③外国人に対して内政を秘密にしておくため

実は、紅葉ヶ丘は江戸時代までは、野生の楓(かえで)が生えている山で、海岸は断崖絶壁でした。「横浜」の地名の由来となった「横浜村」は、たった80軒程度の半農半漁のさびれた寒村でした。



出典:グラフィック西・目でみる西区の今昔(昭和56(1981)年西区観光協会発行)から

それが、江戸時代に埋め立てが始まり、さらに横浜港が開港したことで、日本の近代化を常にリードする場所になりました。

当時は役人である武士たちが、ここから横浜港に浮かぶ外国船を監視していました。また、腰には刀を差し、馬に乗り、ここから港の役所まで往復していました。「紅葉坂」はきつい坂ではありますが、そんなことを考えながら歩くと、ふとタイムスリップするような幻想に誘われます。

2 青少年センターの設立目的

青少年センターは条例により、児童会館・理科教育センター・県民劇場という、3つの機能を持った総合施設として、55年前の昭和37(1962)年に設立されました。

理科教育については、

①主として科学や天文関係の機材等を整備して、

②実験指導、展示及び操作等を行わせ、

③科学知識の習得と知識欲の充実を図り、

科学に対する興味を喚起させるよう、科学知識普及

に努める、としました。理科教育の施設として、2階に体験型科学博物館、4階にプラネタリウム、屋上に天体望遠鏡ドームが設置されました。



オープン当時の青少年センター「青少年センター30年史」より

オープン式典には、国から文部大臣、厚生大臣も列席され、祝辞をいただきました。

事務局から



今号の協議会ニュースでは、事務局の青少年センターについて、その立地と設立目的を紹介しました。よく登場する左のロゴマークは、青少年センター開館55周年記念のものです。次回は「青少年のためのロボフェスタ2017」について報告します。(事務局: 村上、高相、山田、宮城)



青少年センター前の真っ赤に色づいたモミジ(事務局撮影)